

第34回 神奈川県福祉作文コンクール

“おもいやり”や“たすけあい”の心を育み、「ともに生きる福祉社会」の実現を目指して始められたこのコンクールは、今年で第34回を迎えます。

その間、“やさしさ”あふれる約43万編もの作文が寄せられました。小学生も、中学生も、お年寄りも、障がいのある人も、健康な人も、みんなで手を取り合い、肩くみあって、生き生き暮らせる社会を願って福祉作文コンクールを実施いたしました。

■県内応募総数9,992点 ■市内応募総数47点(小学校の部17点 中学校の部30点)

県最終審査会において選考の結果、市内より入選作品が1点ございました。おめでとうございます!!

中学校の部 優秀賞(ふれあい賞)・・・鎌倉市立手広中学校 2年 佐藤 崇平さん

中学校の部で優秀賞(ふれあい賞)を受賞されました、佐藤崇平さんの作文をご紹介します。

私には弟のような友達がいる。四歳下の男の子。学校とゲームが大好きでよくしゃべり、よく笑い、そしてよくいたずらをする子だ。名前は「りん」。りんくんと私の出会いは、私が通う書道教室に、りんくんも通うようになったことだ。私が五年生、りんくんは一年生だった。当時、りんくんは常に帽子を被っていた。病気のために、髪の毛が少ないことを気にして、なかなか帽子をとることはなかった。ある日、書道教室で隣に座った時、何かの拍子で帽子が落ちた。確かにその頭に髪の毛はなかったが照れて笑った顔がかわいく、「かわいいね。」

「かわいいね。」

「お母さんが絶対に自分で持ちなさいって言った。」と、道具を渡そうとしなかったが、「じゃ、お母さんには内緒にしておいてあげるから。」

「お母さんが絶対に自分で持ちなさいって言った。」と、道具を渡すなり、嬉しそうに走って、くるりと振り向いて笑った。書道教室には、すぐに到着してしまっから

「ちよつと遠回りしていいつ。」

という提案に楽しそうにならずいた。

私が中学生になると、書道教室にもなかなか通えなくなった。りんくんにもなかなか会えなかった。そして、別れは突然だった。

平成二十二年三月四日。りんくんは九歳。あま



鎌倉市立手広中学校
二年 佐藤 崇平

僕の一番小さな友達

昨日は泣かなかったのに...

私の中にある感情がおさえきれなくなって、声を出して泣いた。ゲームの約束が果たせなかったこと、もつともつと話をしたかったこと。りんくんから教えてもらったこともたくさんあった。運動会では順位なんて関係なく一生懸命走る。今の自分にできることは、挑戦すること。私の年齢なら、当たり前に行けるようなことをやっても決まってる言ってくれた言葉もあった。

「しゅうくん、かっこいい。」

いろいろなことが次々と頭に浮かんできた。この日まで、命は大切にしなければならぬ、漠然と思っていた。まだ、はっきりとわかったわけではないが、どうして「大切にすること」のかげが少なかったか。一日一日を大事に、一生懸命に生きていこう。それを積み重ねていこう。恥ずかしいくない生き方をしよう。

今はまだ言えないが、りんくんと最後のお別れをした時に、心に決めたことがある。自分が将来、進む道だ。その夢が叶った時、一番最初に、りんくんに報告したいと思っている。そうしたら、また、

「しゅうくん、かっこいい。」

と、言ってくれと思う。亡くなくても私を応援してくれている。だから、私は頑張る。頑張れる。

ふくし コラム 17

地域包括支援センターより、今回は玉縄地区の『地域包括支援センターささりんどう鎌倉』からです。

地域包括支援センターでは、地域にお住まいの方を対象に、成年後見制度の普及と内容を知って頂くために説明会を開催しています。

成年後見制度は、認知症や知的障がいのある方など判断能力が不十分な方々の財産や権利を守るための制度です。家庭裁判所で選任された人が代理人となり、判断能力が不十分な方に代わって財産管理や介護保険の契約などを行います。説明会に参加された方々から、「このような制度があることを知らなかったので、今後の家族や自分のために参考になった」などの感想を頂いております。



自治会や活動団体など、ご依頼があれば成年後見制度の説明会を開かせて頂きます。制度の詳細につきましては、地域包括支援センターにご連絡頂ければ個別の説明にもお伺いします。その他にも、介護保険について知りたいなどのご希望があれば、お近くの地域包括支援センターにご相談ください。

相談は窓口・電話のほか、訪問相談も行っておりますのでお気軽にご相談ください。

地域包括支援センターは各行政区に1か所ずつ設置され専門職員(主任CM、保健師・看護師、社会福祉士)が配置されています。下記に紹介させていただきます。

鎌倉地域	地域包括支援センター	鎌倉市社会福祉協議会	電話 (61) 2600
腰越地域	地域包括支援センター	聖テレジア	電話 (38) 1581
深沢地域	地域包括支援センター	湘南鎌倉	電話 (41) 4013
大船地域	地域包括支援センター	ふれあいの泉	電話 (43) 5977
玉縄地域	地域包括支援センター	ささりんどう鎌倉	電話 (42) 3702

5回にわたり掲載しました、地域包括支援センターのコラムは今回で終了です。ご愛読ありがとうございました。次号より新たなコラムが始まります。

障がい者地域作業所からの活動・作品紹介

今回はここ

R WORK SHOP (虹の子作業所)

虹の子作業所は、ダウン症候群児の親の会「DS虹の子会」が、「高校を卒業した子どもたちの働く場所を用意したい」といった思いから1993年に作られ、現在はスタッフが運営しています。



手織りストール、刺繍布きん、クッキーなど、全てメンバー手づくりの製品です。かわいくラッピングされたクッキーの中でも、特に「ごまクッキー」が好評。



丹精込めて作りあげた作品の数々。多くの観光客でにぎわう小町通りのギャラリーで年に1回だけ「展示会」を開きます。



入口には、「R WORK SHOP」のロゴ看板。「ともに歩んでいこう!」という意味が込められた星の子が2人並んでいます。

R WORK SHOP (虹の子作業所) から一言

「ひとりひとりを大切に、楽しく、ゆつくり、ほちほちと…」をモットーに、メンバー1人ひとりが自分らしく安心して過ごせる場所づくりを目指し、一歩一歩あゆんでいます。

連絡先

住所: 鎌倉市常盤10-10
電話・FAX: 0467-43-5600